

I 学校の概要（立地状況等含む）

本校区は、西側は島間港を臨む海岸線が続き、東側は、急斜面の上に広大な台地に田畑が広がっている。全児童31名のうち、16名が西側の海岸線沿いを、15名が山手側を集団登下校している。学校の海拔は、46mあるが、島間港周辺（海拔1～5m）には、半数に渡る多くの児童が住んでいる。地震による津波や台風（大雨）と満潮時刻が重なった時の高潮等への備えが必要である。



資料① 学校敷地と土砂災害警戒区域

また、学校の東側の山林から学校敷地の約半分は、土砂災害警戒区域に指定され、大雨による土砂災害の被害を受ける危険性が高い。津波や高潮等の場合と同じく、いつ起こるか分からない、いつ起きてもおかしくない自然災害に対しての危機意識が、一人一人に求められている。

II 避難訓練の取組の概要

1 取組の内容、方法等

(1) 避難場所の検討

校舎や体育館、校庭の一部は、土砂災害警戒区域に含まれているため、警戒区域外の校庭南東門（資料①☆）を1次避難場所とし、児童の人数確認を行う場所とした。

(2) 避難経路の検討

本校舎の東側（教室側）からの土砂災害が予想されるため、まずは校舎内で西側へ移動し、本校で一番西側に位置する体育館前から校庭に出て、1次避難場所へ移動するよう避難経路を変更した。

2 避難訓練の内容とねらい

(1) 避難経路・場所の共通理解

土砂災害時の避難経路と場所の共通理解が図れるように、事前の確認と誘導の実践を行う。

(2) 土砂災害時の安全確保

1次避難場所で迅速に人数確認を行い、目の前の校舎が警戒区域に含まれていることを教児共に理解し、児童が冷静沈着に安全な避難ができるようにする。

3 避難訓練実施までに工夫したこと

(1) 非常事態発生時の児童引き渡しマニュアル（保護者用）を作成し、5月に引き渡し訓練を行い、引き渡しのための手順と安全確保のための道路マップを作成し、校内や学校周辺の一方通行規制への協力を依頼した。

- (2) 校区安全マップの見直しと再点検を行い、6月の土曜授業フリー参観日に、親子登下校を実施し、通学路の安全確認を行った。
- (3) 教室や校舎の出入り口、校舎内の避難経路に1次避難場所の写真を掲示し、普段から災害時の行動について意識付けを図った。

4 避難訓練の状況

- (1) 土砂災害教室と避難訓練の実施

ア 開催期日	令和4年1月11日
イ 参加者	全児童、教職員
ウ 参観者	保護者（6人）
- (2) 防災教室の実際



【熊毛支庁における土砂災害教室の場面】

(3) 避難訓練の実際



【土砂災害時避難指示を想定した避難訓練の場面】

5 取組の成果と課題

(1) 成果

土砂災害が起きる仕組みやどんな危険があるのかを防災教室で学んだ知識を生かして、避難訓練を実践したことで、高い危機意識をもった災害時の適切な行動が実践できた。

(2) 課題

授業中以外の担任不在時、休み時間や学校外で土砂災害警報が出された場合、児童自ら命を守る行動が取れることが重要である。災害時の避難行動について、各家庭に周知し、冷静かつ迅速に避難ができるよう保護者・地域と連携した管理体制づくりと「避難確保計画」に基づいた避難訓練の充実を図っていく。